

アレルギー緊急時の対応

※発生場所が本部になる

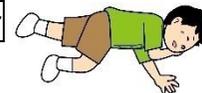
☆安静を保つ体位

仰向けで足を高くする。



☆吐き気・嘔吐がある場合

体と顔を横に向ける。



エピペンの場所

①本人のランドセル

②校長室の洗面台下にある緊急対応バッグ

AEDの場所:校門の横

担任(発見者)

- ・動かさない、一人にしない
- ・担当児童にエピペンカードを持たせる

☆エピペンを打つ

(※打つ前にエピペンの氏名を複数人で指さし声出し確認)

応援を呼んだ後は...

1. 職員室

管理職へ報告

校内放送

AED準備

2. 保健室

校長室のアレルギーバッグを持って現場へ

3. 隣の教室①

児童管理

4. 隣の教室②

現場応援
自教室の児童管理依頼

保健7

担任(発見者)・養護

1. 児童の介護・観察 (+緊急時対応カードへ記録)

2. 事情の分かる教職員が救急車に同乗

管理職・その場にいる職員・栄養士

指揮者の指示のもと、同時に行う

・緊急性の判断、個人別対応方法の確認

裏面の「緊急性の判断と対応」、対応個人票(アレルギーバッグ内)を確認。

・①救急車119、②保護者、③管理職(不在時)へ連絡

※指揮者はアレルギーバッグ内の「指示カード」を渡す

・緊急時対応カードへ記録

・食べたものを献立表で確認

・救急車誘導、児童管理

・応援に向かうクラス担任の学級へ補教

・保護者連絡は、職員室。

(連絡先は児童指導資料引き出し)

・救急車・管理職連絡は、携帯可。

緊急性の判断と対応

◆アレルギー症状があったら5分以内に判断する！

◆迷ったらエピペンを打つ！ ただちに119番通報をする！

1 緊急性が高いアレルギー症状

【全身の症状】

- ぐったり
- 意識もうろう
- 尿や便を漏らす
- 脈が触れにくいまたは不規則
- 唇や爪が青白い

【呼吸器の症状】

- のどや胸が締め付けられる
- 声がかすれる
- 犬が吠えるような咳
- 息がしにくい
- 持続する強い咳き込み
- ゼーゼーする呼吸
(ぜん息発作と区別できない場合を含む)

【消化器の症状】

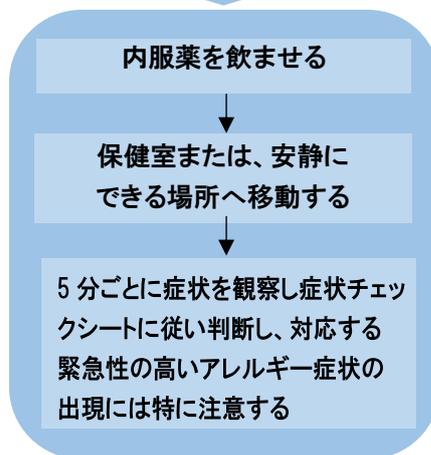
- 持続する強い(がまんできない)
- お腹の痛み
- 繰り返し吐き続ける

1つでもあてはまる場合

ない場合

2 緊急性が高いアレルギー症状への対応

- ① ただちにエピペンを使用する！
- ② 救急車を要請する(119番通報)
- ③ その場で安静にする(下記の体位を参照)
立たせたり、歩かせたりしない！
- ④ その場で救急隊を待つ
- ⑤ 可能なら内服薬を飲ませる



◆ エピペンを使用し10～15分後に症状の改善が見られない場合は、次のエピペンを使用する(2本以上ある場合)

◆ 反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生を行う

安静を保つ体位

ぐったり、意識もうろうの場合



血圧が低下している可能性があるため仰向けで足を15～30cm高くする

吐き気、おう吐がある場合



おう吐物による窒息を防ぐため、体と顔を横に向ける

吸が苦しく仰向けになれない場合



呼吸を楽にするため、上半身を起こし後ろに寄りかからせる